

【施策評価調査】

| | | | | | |
|------|---|----------------------|--------|----|---|
| 施策名 | 2-2-3 | 高齢者の生きがい支援 | | 87 | 高齢者が明るく安心して生き生きとした老後を暮らすことができるようにするために 1. 子どもから高齢者、障害者も利用できる複合的な多目的施設の整備 2. 要支援要介護にならない予防策 3. 地域包括支援センターの有効活用 4. 高齢者の社会参加と学習機会の提供 5. 安定した生活支援 6. 地域協力の体制づくりを構築する 当施策は、4.の観点から高齢者同士、異世代間と接する機会を提供したり、高齢者育成のための講座の受講など情報を提供したり、地域コミュニティの活性化を図っていきます。 |
| | | 高根沢町地域経営計画2006 該当ページ | | | |
| 担当部課 | 住民生活部健康福祉課 | 担当リーダー | 社会福祉担当 | | |
| 環境変化 | 高齢化の進展や町民意識の変化に伴い、家族のあり方も変化してきています。総世帯数の高齢者世帯数は34.8%にのぼっています。高齢者の労働力人口は、高齢者全体の24.9%で、後期高齢者になっても現役で働く割合は増えることが予想されます。また関係課と連携し、生涯学習や公民館事業に高齢者の学習機会を設けています。 | | | | 高齢者の生きがいづくりを目的として、「シルバー人材センター」への登録や生涯学習の受講を促すとともに、高齢者が社会参加をすることで、地域全体の活力の向上を図ります。 (「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋) |

指標

| 施策の評価指標 | 基準値 | 年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|----------------------|--|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 指標：生涯学習講座参加者数(人) | 基準値：平成16年度各年度の指標：推計老年人口の1/3が参加 896人 | 計画 | 900人 | 1100人 | 1400人 | 1700人 | 1949人 |
| | | 実績 | 1862人 | 2783人 | 2521人 | | |
| 指標：シルバー人材センター登録者数(人) | 平成16年度 186人 | 計画 | 195人 | 225人 | 255人 | 265人 | 286人 |
| | | 実績 | 162人 | 166人 | 170人 | | |
| 指標に関する特記事項 | | | | | | | |

| 施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移 | 年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|-----------------------|------------|------------|------------|------------|------|------|
| | 当初 | 19,449,000 | 20,112,000 | 22,204,000 | | |
| 決算 | 18,144,008 | 19,218,597 | 21,638,345 | | | |

事務事業事後評価 20年度の検証

| 施策傘下事務事業 | 事業費 | 活動量(アウトプット) | 施策への貢献度 | 施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム) | | | |
|--------------|---------------|-----------------|---------|---|----|--------------|----|
| 働く場確保事業費 | 当初 9,500,000 | シルバー人材センター会員数 | A | 高齢者の就労と仲間作りに寄与した。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続 | | | |
| | 決算 9,500,000 | 170人 / 200人 | | | | | |
| 敬老会事業費 | 当初 12,574,000 | 参加敬老者数 | A | 高齢者が地元開催の敬老会事業に参加できたことや、地元関係者からの記念品が贈呈され、敬老の交流が図られた。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続 | | | |
| | 決算 12,008,799 | 1,079人 / 1,200人 | | | | | |
| 戦没者追悼式事業費 | 当初 130,000 | 追悼式の参加者 | A | 平和の尊さが実感できる機会となった。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続 | | | |
| | 決算 129,546 | 83人 / 120人 | | | | | |
| 高齢者の居場所づくり事業 | 当初 0 | 高齢者の居場所 | A | 高齢者が地域内において多世代の交流は必要であるので、居場所の交流方法や運営方法を各地域に提供していく。 今後の方向性(自己評価) 継続 今後の方向性(総合評価) 継続 | | | |
| | 決算 0 | 0 / 1箇所 | | | | | |
| | 当初 | | | 今後の方向性(自己評価) | 継続 | 今後の方向性(総合評価) | 継続 |
| | 決算 | / | | 今後の方向性(自己評価) | | 今後の方向性(総合評価) | |

施策事後評価 20年度の検証

| 自己評価 | 施策達成状況に関する評価 | 課題と今後の方向性 |
|------|--------------|---|
| | 総合評価 | 元気な高齢者の生きがいを支援する場としてのシルバー人材センターの活動は必要である。また、敬老会のお祝いを多くの地域で実施されたことは、敬老者が参加しやすくなったことに加え、地域活性化の面でも大きな意義がある。居場所づくりについては、今後社会福祉協議会事業として展開していく。 ■ 総合評価 ■ 継続的に施策展開されていると評価する。ただし、後期計画策定に向け、生涯学習課で行っている事業と役割分担し、高齢者の生きがい支援として、町が行うべきことを精査した施策展開を検討すること。また、それに併せて施策指標についても見直すこと。 |